

調湿木炭



敷設によってアトピー性皮膚炎に改善傾向がみられた調湿木炭

アトピーに改善傾向

炭と発泡スチロールを敷設した二グループによる比較実験を実施。症状改善の度合い、ダニやカビの数の変化などを調べる。

がみられた。高湿度を好み、ヒヨウヒダニやカビの生育を阻害したと推測されるという。

アトピー性皮膚炎の改善に有用な可能性が示されたことから、今後は人程度を対象に、調湿木

がみられたという、初步の結果が得られた段階。森田教授は「改善傾向の度合い、ダニやカビの数の変化などを調べることを証明したい」としている。

出雲土建と島大共同研究

住居の天井や床下に調湿木炭を敷くことで、ダニやカビなどの環境抗原が増悪因子とするアトピー

性皮膚炎に改善傾向がみられることが、出雲土建(出雲市神門町)、島根大学産学連携センター

地域医学共同研究部門、同医学部皮膚科の共同研究で分かった。同科の森田栄伸教授(47)が二〇〇三年五月から八ヵ月間、十代から三十代の男女六人の患者宅に、調湿能力の優れた木炭を床下や天井などに敷き、患者の症状を観察した。五人に皮膚症状の改善がみられ、血液検査でもアレルギー数値が低下する傾向

調湿木炭は、出雲土建と島根大が共同開発した、廃材チップを特定の炭化温度(約780度)で処理した製品。産学共同研究は、二〇〇三年五月から八ヵ月間、十代から三十代の男女六人の患者宅に、調湿能力の優れた木炭を床下や天井などに敷き、患者の症状を観察した。五人に皮膚症状の改善がみられ、血液検査でもアレルギー数値が低下する傾向